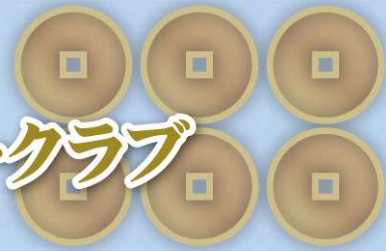




2018-19年度
国際ロータリー会長
バリー・ラシン

第2600地区ガバナー 伊藤 雅基

国際ロータリー第2600地区
上田六文銭ロータリークラブ
Rokumonsen Rotary Club



【事務局】

〒386-0025 長野県上田市天神4-24-1
上田東急REIホテル 3F
TEL 0268-25-6000 FAX 0268-25-6002
<http://www.ueda.ne.jp/~ueda6rc/>
《例会日》毎週火曜日 12:30~13:30
《例会場》上田東急REIホテル 2F
《創立》1997年2月18日

●会長 水野 泰雄 ●幹事 小嶋 修一 ●会報委員長 柄澤 堯 ●副委員長 大久保昌宏 ●委員 西澤 文登/渡邊 章貴

例会日誌

- 司会 松澤 一志君
- 開会点鐘 水野 泰雄
- 斉唱 『国歌斉唱』『奉仕の理想』
- 慶祝
 - 皆出席 水野 泰雄君(9年)
 - 誕生日祝
 - 杉山 裕君(1日)
 - 山崎 芳雄君(7日)
- プログラム
 - ・次年度委員会発表
会長エレクト 宮澤 広一君
 - ・R財団委員会
『次年度地区補助金事業について』
R財団委員長 中澤 信敏君



会長挨拶

水野 泰雄君

弥生三月～三寒四温と言いますが、温かな日が続いています。【サンゴの日】WWF(世界自然保護基金)が「3(サン)5(ゴ)」の語呂合わせから、1996年(平成8年)に制定された。

先日3月1日には母校上田東高校の卒業式に行っていました。厳しい時代は続きますが、新しく社会や大学に出て行く若人にエールを送りました。

さて人生は100年の時代を迎えると言われます。昨年厚生労働省が発表した2017年時点の日本人の平均寿命男性は81.09歳、女性87.26歳とのことです。平均してあるこれだけの年数の人生を日数に直すと、82年と少しでちょうど30,000日になります。この30,000日を10,000日で3分割して考えると、新た

な人生観が見えてくると言います。それはいったいどのようなものなのでしょうか。

『人生三分の計』のこと
寿命を誇る日本～気付けば人生も随分長くなったものです。とは言え、少しばかり違う尺度でこの数値を見直してみると印象も変わって来ます。自分は男性であるから平均から言って82歳まで生きれば、まず上の部です。その82年という歳月を日数に直せば、切り良くちょうど30,000日となります。人生30,000日。これだと何か短く感じはしないか。その過半数を使い果たした者として打ち明けて言う。人生は短い！ここで改めて日数と年齢の関係を整理すると、誕生後～10,000日目＝27歳～20,000日目＝54歳～30,000日目＝82歳というふうになります。図らずも人生を10,000日ずつ綺麗に三分割する形となるのです。是非ともここに意義を見出したい。人生三分の計です。

まず、誕生後最初の10,000日は「学習」とする。小中高は言うまでもなく、この期間にあってはとにかく学ぶ。一般的なコースで大学に進学したとしても卒業後4、5年はある。修士課程なら二つの、博士課程なら一つの学位は取得できる。それ以外の場でも、学習意欲さえあればどこで何をやってもいい。極論を言えば、学習意欲さえあれば何もやらなくてもいいとまで思う。引き籠りやニートの類も自分を社会から切り離して独りで何をか学ぼうとしている、と考えればそれなりの市民権が与えられて然るべきであろう。

次の10,000日は「実践」とする。最初の10,000日で身に付けたものを基礎として、自らの手で道を切り拓き、具体的な成果を実績として積みながら歩んで行く。仕事の10,000日と言ってもいい。実際、27歳から54歳と言えばまさしく働き盛りである。

最後の10,000日は「育成」とする。

それまでの20,000日の経験を活かして、今まさに最初の10,000日を生きている若者たちを教え導くのである。言ってみれば、社会貢献、恩返し、10,000日である。

上記のことを、はたらきかけの関係性に着目してまとめると、

10,000日までは、誰かが自分を
20,000日までは、自分で自分を
30,000日までは、自分が誰かを

というふうになります。まず27歳くらいまでは誰もが皆学生なのです。それは教育の場にあっても、それ以外の場にあっても同様です。学生と言うのに違和感があるなら、新人、部下、弟子、何でもいい。とにかく彼らは学ぶ人なのです。それ故、彼らに対するには厳格さと同時に寛容さをもって臨まなければなりません。が、どうでしょう。現実には前者も後者もおそろかにされてはいないか。

また最後の10,000日に関しても価値観の書き換えが必要です。そもそもこの10,000日は54歳から始まり82歳まで続く。つまり、この分割法だと老後や余生といった概念がなくなるのです。大体、老いさらばえたその後は病か死しかないではないか。余った生命とはまた随分な言い様ではないか。これではダメである。もっと積極的に世の中に関わらなければならない。54歳以上は誰もが人生経験的指導者なのだから若者に対して果たすべき役割は大きいはず。勿論、人それぞれで事情や立場は異なります。しかし、このラスト10,000日の貢献があって初めて貸し借り無し的人生と言えるのではないのでしょうか。「若造のためになぞ誰が」とどうしても業腹なら、「情けは人のためならず」自分のために功德を積むとでも考えればいい。このように、10,000日×3の人生観においては、どの10,000日をとってみても大仕事であるということが自ずと分かります。だからこそ一日一日、やりたいこと、やるべきこと、そしてできることをよくよく考えて生き続けていきたいものです。

幹事報告

小嶋 修一君

1. RI より
 - ・『水と衛星月間』リソースのご案内
 - ・財団室ニュース 3月号
2. 地区事務所より

・2020-21年度がバナー補佐選出について

全会員配布物

1. 当クラブ会報 第1012号
2. 会長より 今週の言葉
3. ロータリーの友 3月号
4. 月信 3月号

出席・ニコニコBOX報告

吉田 穰君

	ベース	欠席	メイク	出席率
本日	25	6	0	76.00%
前々回	23	7	6	95.65%

水野泰雄君 春らしい天気になりました。昨夜の山の雪も溶けて花粉も飛んでいます。3月もよろしくお願ひします。

宮澤広一君 来年度の委員会を発表させていただきます。

山田 豊君 久しぶりの例会出席。ご無沙汰しております。

肥田野秀知君	笠原 一洋君	柄澤 堯君
北村 久文君	小嶋 修一君	松澤 一志君
宮原 宏一君	中澤 信敏君	西澤 尚夫君
西澤 文登君	齊藤恵理子君	田中 栄一君
杉山 裕君	吉田 穰君	合原 亮一君

プログラム

・次年度委員会発表

会長エレクト 宮澤 広一君



2019-20年度委員会構成が発表されました。次年度委員会の皆様よろしくお願ひいたします。

・R財団委員長 中澤 信敏君

次年度地区補助金事業申請についての報告がありました。

合原亮一君より営農型太陽光発電の説明がありました。

